

---

## けいざい早わかり 2011年度第16号

# 赤字となった貿易収支

---

### 【目次】

- Q1. 2011年の貿易収支が赤字になったそうですね。 ..... p.1
- Q2. 貿易赤字で日本経済はやっていけるのでしょうか？ ..... p.2
- Q3. 経常収支も赤字になるという話を聞きました。 ..... p.3
- Q4. 円安になれば貿易収支は黒字に戻りませんか？ ..... p.4
- Q5. 経常収支が赤字になるとどういった影響がありますか？ ..... p.5

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 中田 一良 ( [chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp) )

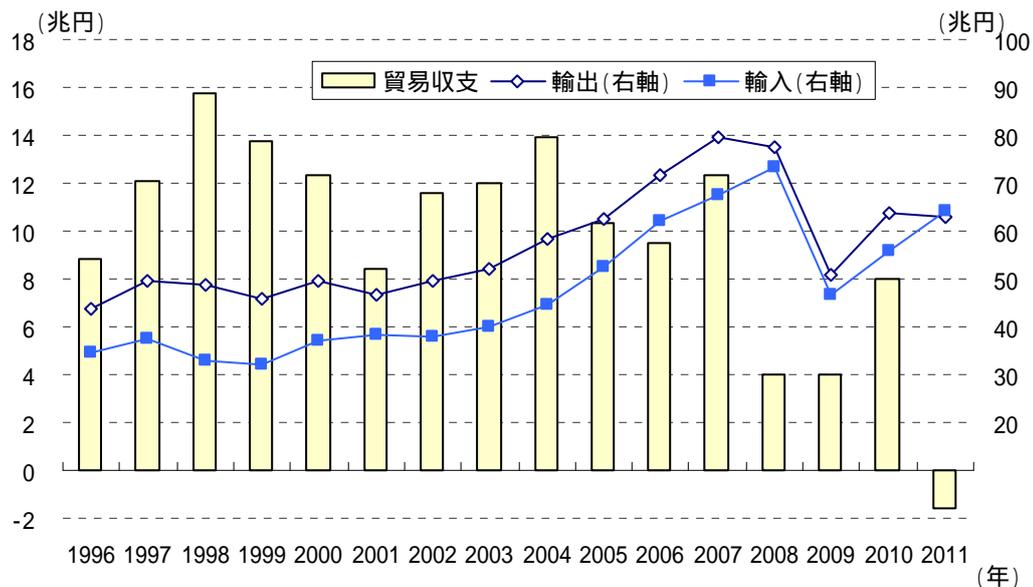
〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2

TEL: 03-6733-1070

Q 1 . 2011 年の貿易収支が赤字になったそうですね。

- ・ 財務省「国際収支状況」(速報)によると、2011 年の貿易収支は 1 兆 6089 億円の赤字となりました(図表 1)。2010 年の貿易収支は 7 兆 9789 億円の黒字でしたので、1 年間で貿易黒字は 9 兆 5878 億円も減少しました。貿易収支が赤字となったのは、1963 年以来、48 年ぶりのことです。輸出は 62 兆 7234 億円と前年に比べて 1.9% 減少したのに対して、輸入は 64 兆 3323 億円と前年に比べて 15.0% 増加しました。

図表 1 . 貿易収支の推移



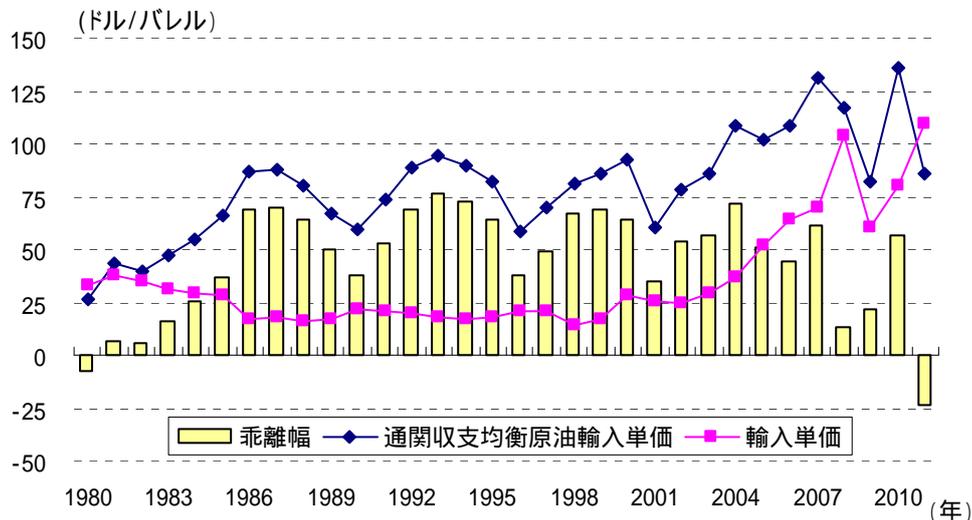
(出所)財務省「国際収支状況」

- ・ 2011 年の輸出と輸入の動向を、国際収支統計の基礎統計である通関統計をもとにもう少し詳しくみてみましょう。輸出金額を数量と価格の動向にわけてみると、輸出価格は前年比 + 0.2% と小幅に上昇しましたが、輸出数量が同 - 2.9% と 2 年ぶりに減少しました。この輸出数量の減少は、東日本大震災後のサプライチェーンの寸断のために生産が滞ったことや、欧州財政金融危機を背景とする海外経済の減速の影響を受けたためだと考えられます。商品別に輸出金額の動向をみると、日本の輸出の主力である自動車が含まれる輸送用機器が前年比 - 8.0%、半導体等電子部品などの電気機器が同 - 8.3% と大きく減少しました。
- ・ 輸入についてみると、輸入数量は前年比 + 3.2% と増加しました。福島原子力発電所の事故を契機に国内の原子力発電所の稼働停止が相次ぎ、電力供給不足を補うため火力発電に頼る状況となっています。その燃料となる液化天然ガスの輸入量が前年比 + 12.2% と大きく増えたことが輸入数量の増加要因の一つに挙げられます。輸入価格は前年比 + 8.7% と上昇しましたが、原油をはじめとする鉱物性燃料の輸入価格が同 + 23.1% と大幅に上昇したことがその主な要因です。
- ・ 鉱物性燃料のほとんどを輸入に依存している日本は、1970 年代の石油危機時のように原油価格が高騰した時には輸入の増加を通じて貿易黒字が大幅に減少する傾向があります。図表 2 は、過去の通関収支と原油の輸入単価から、どの水準まで原油の輸入単価が上昇しても通関収支が赤字にならな

いかを計算したもの（以下、通関収支均衡原油輸入単価）です。たとえば2007年は原油の輸入単価はおよそ70ドル/バレルでしたが、仮に130ドル程度まで上昇しても通関収支は赤字にならなかったと計算されます。これは、2002年から2007年にかけては世界的な景気拡大などを背景に輸出金額は増加が続いており、原油価格が上昇して輸入金額が増えても通関収支が赤字にならないだけの輸出金額を確保できていたからです。

- しかし、リーマン・ショック直後に落ち込んだ輸出は、それ以前の水準には回復しておらず、通関収支均衡原油輸入単価は、2010年を除いて、80ドル台にまで低下しています。他方、原油の輸入単価は近年、上昇傾向にあることから、通関収支均衡原油輸入単価との乖離は以前と比べれば縮小しています。原油価格が上昇した場合に2011年のように通関収支が赤字となる可能性は以前よりも高くなっていると言えます。

図表2．通関収支均衡原油輸入価格の推移



(注)通関収支均衡原油輸入単価とは、その年の原油及び粗油の輸入数量と通関収支を所与として、原油輸入単価がどの水準まで上昇しても通関収支が赤字にならないかを計算したもの  
(出所)財務省「貿易統計」、総務省「日本の長期統計系列」より作成

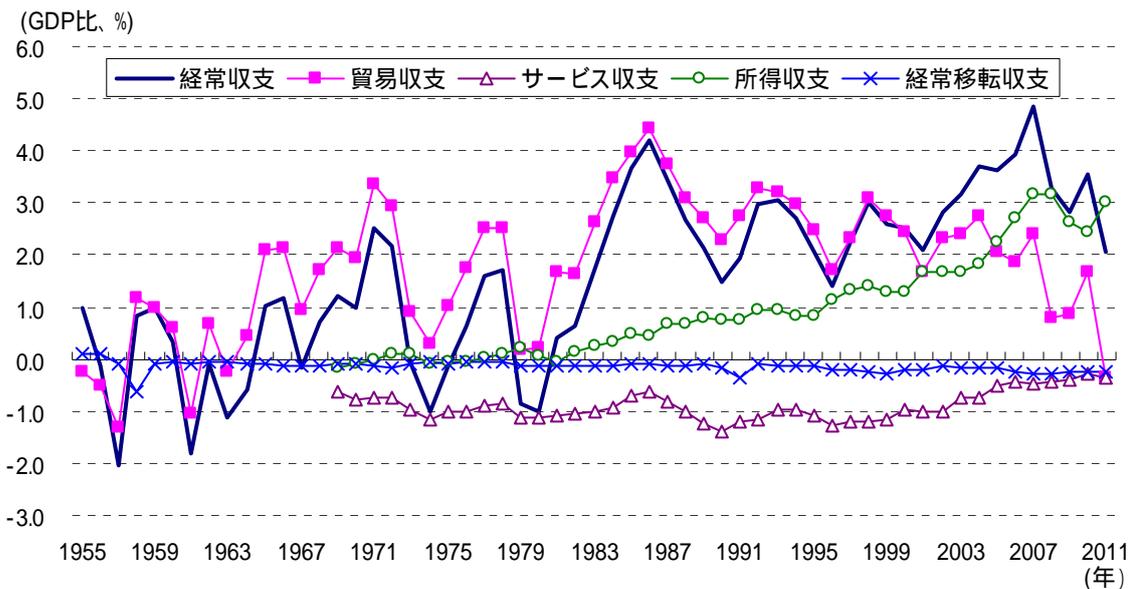
## Q2．貿易赤字で日本経済はやっていけるのでしょうか？

- 貿易収支や所得収支などの合計である経常収支は、国の経済発展段階に応じて一定のパターンをたどるという考え方があります。この考え方は、国際収支の経済発展段階説と呼ばれています。それによると、経済発展が初期の段階では、輸出の国際競争力が弱いため貿易・サービス収支は赤字ですが、経済発展が進むにつれて国際競争力をつけ、貿易・サービス収支は黒字になります。しかし、さらに発展段階が高まっていくと、賃金水準の上昇などを背景に次第に国際競争力を失い、貿易・サービス収支は赤字に再び転じるとされています。
- 経常収支は、貿易・サービス収支の黒字幅が拡大してくると、赤字から黒字に転じると考えられています。所得収支は、経済発展の初期段階では海外資本に依存する必要があることから赤字です。しかし、その後、経常収支の黒字を背景に对外純資産が増加して、所得収支は黒字に転じると考えられています。つまり、貿易・サービス収支は発展段階に応じて、赤字

黒字 赤字と推移し、所得収支は赤字 黒字と推移するわけです。経常収支は、貿易・サービス収支と所得収支の黒字や赤字の大きさの兼ね合いによって、赤字 黒字 赤字と推移します。最終的に経常収支が赤字になるのは、所得収支の黒字幅よりも貿易・サービス収支の赤字幅が大きいためです。発展段階説に基づいて考えるならば、経済発展が進めば貿易・サービス収支が赤字になり、いずれは経常収支も赤字になるというわけです。

- ・ 日本の経常収支の長期的な動向をみると、1960年代半ば以降に貿易収支の黒字が定着し、それに伴い、経常収支も黒字傾向で推移するようになりまし（図表3）。そして、1980年ごろからは所得収支も黒字に転じ、黒字幅は拡大傾向にあります。このような動向から判断すると、日本の経常収支は、概ねこの発展段階説に沿って推移してきていると言えます。
- ・ 2005年以降は、日本の所得収支の黒字幅は貿易収支の黒字幅を上回っており、経常収支の構造からみれば、すでに貿易で稼ぐよりも投資で稼ぐ金額のほうが大きくなっています。貿易収支が赤字に転じて、所得収支の黒字幅がそれよりも大きければ、経常収支は黒字を維持し続けることができることになります。

図表3 . 経常収支の長期的な推移



(注) 所得収支のうち1984年以前は投資収益収支、サービス収支のうち1984年以前は貿易外収支から投資収益収支を引いたものを掲げている。このように、1984年以前とそれ以降では必ずしも連続しない。

(出所) 総務省「日本の長期統計系列」、財務省「国際収支状況」、内閣府「国民経済計算」などから作成

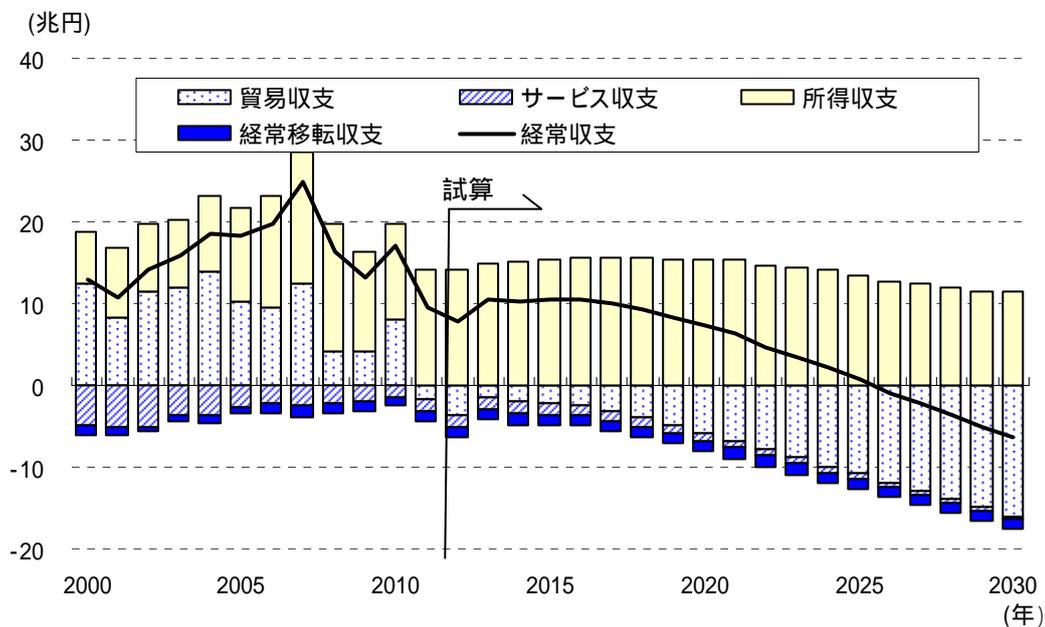
### Q3 . 経常収支も赤字になるという話を聞きました。

- ・ 今後も原油価格の高騰が続く場合、貿易収支は引き続き赤字傾向で推移する可能性が高いと考えられます。もっとも、現在は欧州財政金融危機を背景に景気が減速している世界経済が、今後、回復のペースを取り戻せば、それに伴って日本からの輸出が増加すると考えられます。したがって、今後数年のうちに、貿易赤字の急速な拡大が続くことはなさそうです。
- ・ また、日本は、長期にわたって経常収支の黒字が続いていることなどを背景に、2010年末時

点で563.5兆円の対外資産を保有している一方、対外負債は312.0兆円にとどまっています。この結果、対外純資産は、世界の中で最大の251.5兆円にのびます。このような対外資産・負債構造が、2011年で約14兆円の所得収支の黒字を生み出している背景にあります。こうした構造は急速に変化するとは考えにくいというに、今後、企業が海外への移転を加速させれば、海外子会社からの配当といった形で所得収支の受取を増やすことになります。したがって、所得収支の黒字は今後も高水準を維持すると見込まれます。貿易収支の赤字が続いたとしても所得収支の黒字幅がそれを上回り、経常収支はしばらくの間、黒字を維持すると考えられます。

- では、経常収支は長期的にも黒字が続くでしょうか。経常収支は原油価格や為替レートなどの影響を受けるため、それらの将来の動向についてどのように想定するかによって、経常収支の水準も異なってきます。長期にわたって、原油価格の上昇が続き、為替レートが円高で推移する場合には、輸入の増加を通じて貿易収支の赤字幅は拡大していくと考えられます。また、円高は、円ベースでみた対外純資産を縮小させます。そのうえ、投資収益率は長期的には低下していくと考えられるため、所得収支の黒字幅は次第に頭打ちになり、その後は縮小すると見込まれます。将来的には貿易赤字が所得収支の黒字を上回り、経常収支は赤字に転じると考えられます（図表4）。

図表4．経常収支の長期試算



(注)2030年の為替レートは65円/ドル、原油価格は150ドル/バレルという前提に基づく試算。  
 (出所)実績は財務省「国際収支状況」、試算は筆者による。

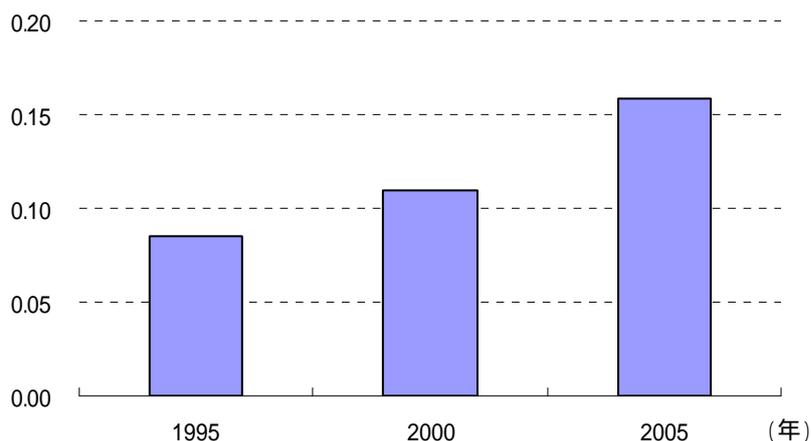
Q4．円安になれば貿易収支は黒字に戻りませんか？

- 為替レートが円安になれば、輸出の増加を通じて貿易収支は改善すると考えられます。他方で、円安は輸入価格の上昇をもたらし、輸入の増加を通じて貿易収支の改善を抑制すること

になります。また、輸出が増える場合、グローバル化や企業の海外生産の進展を背景に、生産に必要な部品などの輸入も増加する傾向が強まっています(図表5)。したがって、円安になれば輸出は増加するものの、それに伴い輸入も増加するため、貿易収支は改善しても、その程度は以前ほど大きくはない可能性も考えられます。

- ・ 原油価格が上昇している場合には、円安により輸入価格がさらに上昇して、輸入金額の増加をもたらします。図表2にあるように、最近原油価格が上昇した場合には、日本の貿易収支または通関収支は以前と比べると赤字になりやすくなっているため、原油価格の動向によっては、円安になっても貿易収支は必ずしも黒字になるとは限らないでしょう。
- ・ 他方、円安は円ベースでの対外純資産を増加させ、所得収支の黒字幅を拡大させる効果をもたらします。円安は、貿易収支だけでなく、所得収支の黒字幅の拡大を通じて、経常収支の黒字幅を拡大させると考えられます。

図表5 . 輸出の輸入誘発係数の推移



(注)輸出が1単位増加した場合に輸入がどれだけ増えるかを示したもの

(出所)総務省「産業連関表」より作成

#### Q5 . 経常収支が赤字になるとどういった影響がありますか？

- ・ まず為替レートへの影響が考えられます。為替レートは、二国間の金利差、物価水準、通貨当局の介入、経常収支など、さまざまな要因によって決まると考えられます。経常収支が赤字ということは、貿易や配当や利子の受払を通じた海外との資金のやりとりは支払のほうが大きいということです。日本の経常収支が赤字になった場合、海外への支払のためにドルを調達する必要があります。したがって、経常収支の赤字は為替レートに対して円安要因となると考えられます。
- ・ また、経常収支が赤字になるということは、国内の資金需要が国内の資金供給を上回っていることを意味します。このため、海外から資金を調達する必要性が高まることになるでしょう。たとえば、現在、日本の国債の9割以上は日本人によって保有されていますが、財政健全化が進まないうに経常収支の赤字が続くような場合には、国債の発行額に対して国内資金だけでは十分ではなく、海外資金への依存度が高まる可能性があります。その際には海外からの資金を調達するために金利が

上昇することも否定できないでしょう。

問合せ先 調査部 中田 一良

E-mail : [chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。